

助成事業実施報告書

団体名.....ハイビスカス.....

代表者・役職名 氏名.....指導員 辺野喜 徹.....

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

余暇活動事業 (日帰り旅行)

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

昭和61年4月、国立市手をつなぐ親の会を母体として、市内の会員宅敷地内にうめの木作業所が設立されました。その後同会を母体として設立した、カタバミ作業所、ハイビスカスと合同で平成18年10月特定非営利活動法人の認可を受けました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

利用者への生活訓練は室内での作業訓練・生活指導だけでなく、課外活動を行うことで社会性を身に付けていきたいと考えています。東京都の指導では、利用者への指導訓練は室内のみが認められているため、課外活動は保護者の負担が多く少しでも負担軽減をいたしたく、福祉関係機関のご協力をいただけるよう努めています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

日帰り旅行 10月9日(日) 8:00 ~ 18:00

ハイビスカス=中央道・首都高・アクアライン(海ほたるPA)=館山道=富津中央IC=マザー牧場(散策と動物ショー見学、昼食)=館山道=富津金谷IC=金谷港 東京湾フェリー(約35分の船旅)=久里浜=横浜横須賀道路・首都高・中央道=国立府中IC=ハイビスカス

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

日帰り旅行当日は体調不良により数名の利用者が参加できず、人数の減少がありました。参加者は朝からとても元気が良く、旅行を楽しみにしている様子でした。ハイビスカスを出発後は外を笑顔で眺めていたり、スタッフと利用者や利用者間での会話も弾み笑顔がよく見られました。

マザー牧場ではあいにくの空模様でしたが、動物のショーを見たり動物と触れ合ったりと充実した時間を過ごすことができました。東京湾フェリーは船の揺れに戸惑う利用者もいましたが、貴重な体験になりました。

1日を通して利用者の方の楽しそうな様子や、利用者間やスタッフとのコミュニケーションもよく取れていて、とて

も有意義な余暇活動を過ごせました。保護者の方からも「帰宅後、すごく楽しかったとたくさんのお話を聞かせてくれました。素敵な思い出をありがとうございました」、「楽しい1日をありがとうございました。家族も1日ゆっくり過ごせました」などの話をいただきました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

例年、日帰りバス旅行終了後にアルバムを作成し、記念品として参加者の方に配布しているのですが、それは別で旅行先にて焼き物などの創作体験をして、それも記念品としてお渡しできればさらに参加者の方に喜んでいただけるかと思っています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし